

くくりわなのハードル式設置法による シカの効率的な捕獲

森林林業部

1 背景、目的

シカによる農林業被害を軽減するために、本県では第二種特定鳥獣（シカ）管理計画を策定し、シカ生息数の減少を図っています。しかし、捕獲を担う狩猟者は、銃器許可者の減少や高齢化が進み、現状以上に捕獲数増を目指すことが困難になりつつあります。最近、シカの捕獲はくくりわなによるものが半数を超えており、捕獲数を増やすためにはくくりわなの捕獲効率を向上させることが強く求められています。

そこで、効率的にシカを捕獲できるくくりわなの設置方法を明らかにしました。

2 成果の内容、特徴

- 1) 高さ 20～30cm の倒木を通過したシカの足跡の約 70%は、倒木から 20～35cm の範囲にあります（図1）。
- 2) ハードル式設置法は、シカがよく歩いている通り道に、高さ 20～30cm、長さ 50cm 以上の倒木を置き、倒木から約 30cm の位置にくくりわなを設置する方法です（図2）。
- 3) ハードル式設置法は、シカの通り道にくくりわなのみ設置した方法と比べ、捕獲効率が約 2 倍に向上します（図3）。
- 4) ハードルは、小さい木や石などを積み重ねたものでも代用可能です。

3 主要なデータ・画像など



図1 倒木からのシカの足跡の分布

注) 朝倉市、東峰村で19本の倒木から50cm以内の142個の足跡を調査

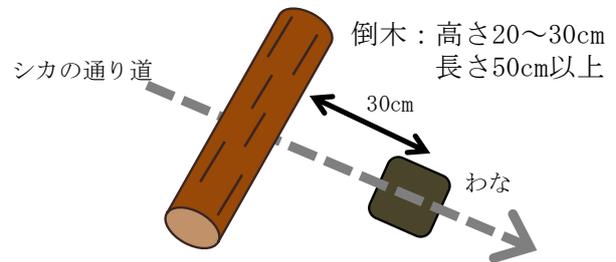


図2 くくりわなのハードル式設置法

注) シカの通り道に高さ20～30cm、長さ50cm以上の倒木を直角に置き、倒木からシカの進行方向へ約30cmの位置にわなを設置

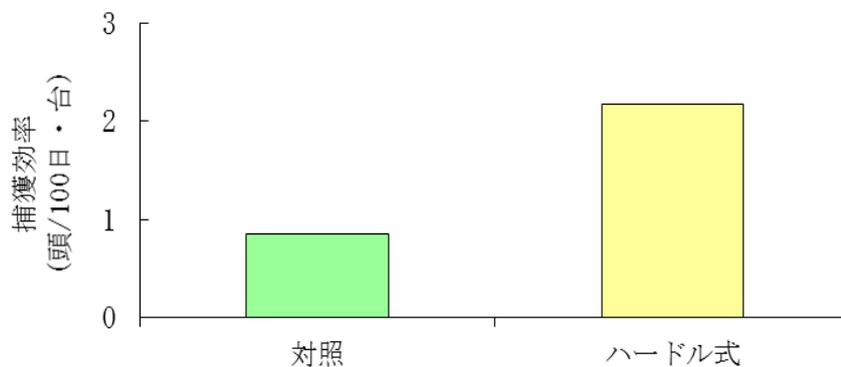


図3 ハードル式設置法の捕獲効果

- 注) 1. 調査は朝倉市の森林、果樹園の3か所で4回実施し、1回あたり9～25台のくくりわなを3か月間設置
2. 対照はシカの通路にくくりわなのみ設置